

藤原忠彦・全国町村会長就任挨拶

(平成23年7月8日)

皆様からのご推挙によりまして、再度全国町村会長を務めさせていただくこととなりました。本当に身の引き締まる思いであります。

振り返りますと、昨年の4月21日に前任者の後を引き継ぎまして会長に就任したわけですが、その間、鳩山内閣から菅内閣への交代、東日本大震災による罹災、さらに被災した東京電力福島第一原子力発電所の事故など、政局・自然災害・人災と大変な一年でありましたが、皆様方の御協力によりまして、本日まで来たところであります。これからも皆様のご期待に応えられるよう、全国町村会長として、精一杯任務を果たしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

特に、先般「国と地方の協議の場に関する法律」が成立し、6月13日に第1回の協議が開かれ、「社会保障と税の一体改革」などについて議論されましたが、政府・与党は閣議決定を先送りする中で、ようやく改革案を取りまとめたところではあります。今後は、国と地方の実効ある対話を積み重ね、真に効果的な施策が実現できるよう、「町村の声」を強く主張してまいりたいと思っております。

また、こうした場に限らず、全国町村会は、喫緊の課題や情勢に対応し、あらゆる機会をとらえて、独自の存在感を発揮していかなければなりません。そのためには、組織としての発信力を強めていく必要があるかと思っております。

政務調査会の体制を強化し、政策の調査研究機能や提案能力を高めるとともに、それぞれの町村が政務情報を共有する中で議論し、相談し合える、透明性の高い組織づくりを目指していきたいと思っております。

これからのことは、全国の町村会会長の皆様にご協力をいただいで、進めて参りたいと思っておりますので、微力ではありますが、全力を挙げて会長職の大任を果たしてまいる覚悟でございます。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、ご推挙いただきました御礼を申し上げまして、会長就任の挨拶といたします。